

「生き生き活動」の取り組み

静岡県 医療法人社団 喜生会 新富士病院

介護科 ○稲木 文江 佐野 真弓
 後藤 綾乃 小山 美佳

【はじめに】

当病棟では

- ・患者様を寝たきりにしない
- ・患者様 1 人 1 人の個性を大切にする
- ・日常生活動作の低下を防止し向上を図る

という目的をあげ、何ができるかをスタッフで話し合い、「生き生き活動」を試みたので報告する。

【対象】

平成18年2月1日～平成18年5月31日(4ヶ月間)に入院していた障害高齢者自立度A 2・B 1・B 2の入院患者様を対象とした。

1日平均	12名
4ヶ月間実人数	36名

【方法】

毎週水・土曜日に活動を実施した

	水曜日	土曜日
第一週	誕生会	製作活動
第二週	紙芝居	//
第三週	習字	//
第四週	レクリエーション	//

- 早番と遅番で30分交代にて行なう。
- 製作活動では季節に合ったはり絵を行なう。

- 評価項目として集中力の持続時間

1時間以上 ◎

30分以上 ○

15分以上 △

15分以下 ×

として、初回時間と2回目以降で集中力の持続時間の評価を行なった。

活動紹介



図1 習字



図2 絵合わせゲーム



図3 製作活動

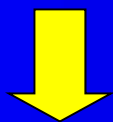


図4 レクリエーション

改善の見られた患者様の紹介

A氏 74歳 要介護4

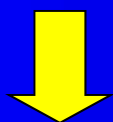
入院当初より車椅子は行なえたが活動性見られず。



習字の時は、笑顔が見られ「書きたい」との言葉も聞かれ、試験的に筆を持つと自分の好きな字を書き始めた。

B氏 78歳 要介護4

車椅子乗車されるも依存心強くすぐ居室に戻りたがる。



絵合わせゲームに興味を示し、夢中になってやられる様子。訴えもほとんど聞かれず笑顔が増えた。

【結果】

個人により集中する時としない時はあるものの、実施回数の半分以上集中して実施できた人は20名、出来なかった人は16名であった。

- 患者様の意外な一面や、こちらが思っていたイメージも変化した。
- 協調性・精神的刺激また安定につながった。
- 「うれしい」「楽しい」「くやしい」など感情表現みられ表情豊かになった。
- 「やったー」「もう1回」などの自発的発語が多くなった。

【考察】

それぞれの活動を通して個人的に集中できるものが決まってきましたが、スタッフも患者様1人1人も変わってきたと思われる。

出来ないだろうと感じていたことが、**やってみたら出来たという喜び、もっとやろうとする努力、それによって動かそうとする手や指**を見ていると、私たち人間の本質を見た様な気がする。

今後も患者様・スタッフ共に喜びを感じられるより良い環境作りを目指し、援助をしていきたいと考える。